

## 駿府城 静岡市葵区駿府公園

天文 18 年(1549)家康は今川の人質として 19 歳まで 12 年間過ごし、天正 10 年 (1582) 武田氏滅亡して徳川家康が駿河を領有し同 13 年城を修築して翌年浜松城から移る。家康関東移封後は中村一氏が入城。江戸開府後の慶長 12 年 (1607) 家康が大改築して隠居城とし生涯 3 度にわたり駿府城で過ごす。そして、元和 2 年(1616)久能山に埋葬される。家康没後、頼宣・忠長などが城主となるが、明治まで幕府が直轄した。

本城は隣地の県庁展望台から眺められ(函館五稜郭を展望台から見ると同じ)、全体の城の様子をうかがい知ることができるし、静岡市歴史博物館は 2023 年 1 月にグランドオープンが予定されているが今は土日に限定して入ることができる。また、本城の特徴は江戸城より大きな天守台と安倍川に繋がる本丸と二の丸をつなぐ濠の水路に特徴がある。



隣地の県庁からの俯瞰図(左は本丸、真中は発掘が終わった天守跡、右は遠くに久能山)



時代によって石垣の積み方が異なっている



東御門周辺(濠には観光の葵船が走っていた)



本丸堀と二の丸堀の連結水路(右の本丸堀の水を外に流す、物流として使用など)



天守台発掘跡地



天守台が一番広い、二番目寛永期の江戸城、三番名古屋城、竹千代手習いの間